

(様式 - 1)

栃木県公共事業事前評価・自己評価書 [県土整備部 道路事業]

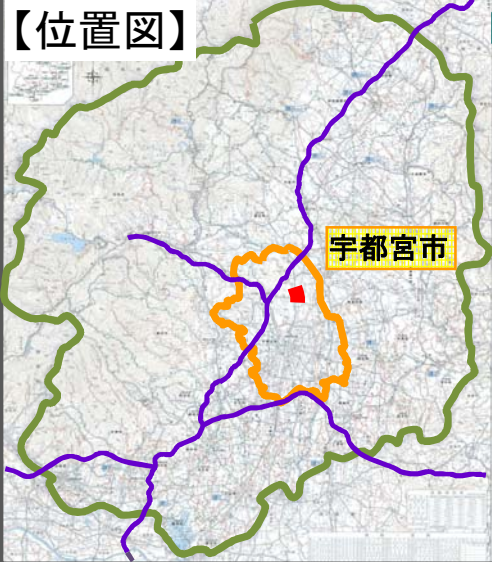
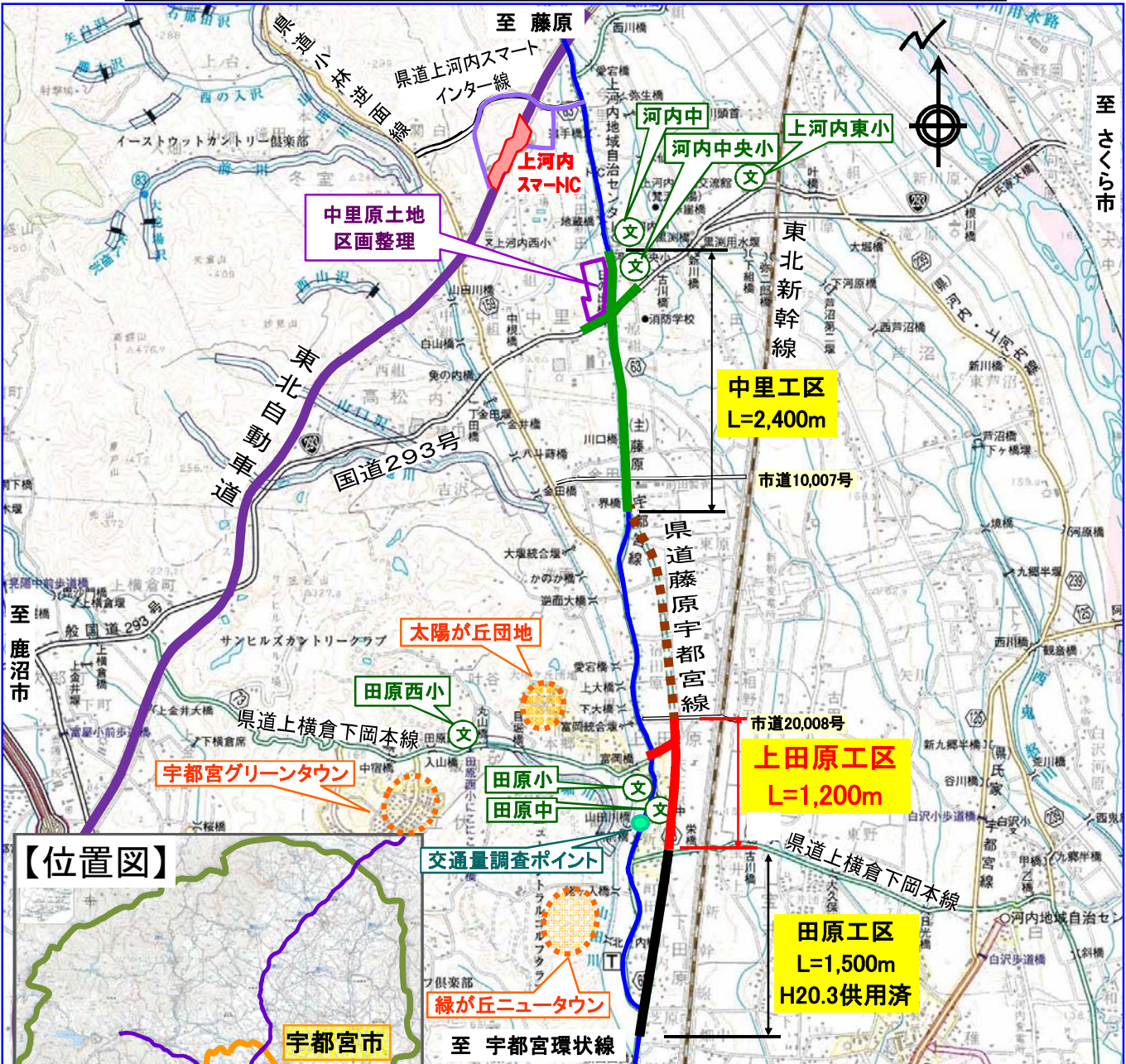
1 / 2

事業概要調査書																					
1. 事業名	主要地方道藤原宇都宮線 宇都宮市上田原工区整備事業																				
2. 事業箇所	宇都宮市 ^{かみたわら} 上田原地内																				
3. 事業の概要	(1) 事業目的 <p>主要地方道藤原宇都宮線は、県都宇都宮市と県北部地域との、連携と交流を図る幹線道路であり、北部地域から宇都宮市内への通勤通学道路として多く利用されているほか、上河内スマートインター線に接続する唯一の県道であり、交通結節点へのアクセス道路として重要な役割を担っている。</p> <p>上田原周辺においては、中里原土地区画整理事業（14.4ha、H18～）が実施されているほか、多くの宅地開発が進んだことにより、近年交通量が増加している状況にある。</p> <p>また、沿線には田原小学校・田原中学校がありますが、歩道が未整備であることから、安全で円滑な交通確保が急務となっている。</p> <p>しかしながら、現道は狭隘で見通しも悪く、更には人家が連担していることから、バイパス道路を整備することにより、通過交通の転換を図り、通学児童の安全性を向上させるとともに、快適で円滑な車両交通を確保する。</p>																				
	(2) 計画概要 <p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該地域の地形や道路線形及び工事コスト等を考慮し検討した結果、現道は人家連担地区に位置し拡幅が困難なことから、東側にバイパスを整備し、人家連担地域から通過交通を排除する、地域の安全に配慮した計画とした。 将来の交通量に対応するため4車線の整備計画となるが、当面は暫定的に2車線を整備することとし、交通量の推移を見ながら適宜4車線化を図る。 <table border="1"> <tr> <td>全体延長</td> <td>： 約 1,200m</td> <td>現況交通量(H17年)</td> <td>： 14,771 台/日</td> </tr> <tr> <td>道路幅員</td> <td>： 25.0m</td> <td>計画交通量(H42年)</td> <td>： 9,700 台/日 (B P)</td> </tr> <tr> <td>車線数</td> <td>： 4車線 (暫定2車線)</td> <td></td> <td>： 7,100 台/日 (現道)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計速度</td> <td>： 60 km/h</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>構造物等</td> <td>： -</td> </tr> </table>	全体延長	： 約 1,200m	現況交通量(H17年)	： 14,771 台/日	道路幅員	： 25.0m	計画交通量(H42年)	： 9,700 台/日 (B P)	車線数	： 4車線 (暫定2車線)		： 7,100 台/日 (現道)			設計速度	： 60 km/h			構造物等	： -
	全体延長	： 約 1,200m	現況交通量(H17年)	： 14,771 台/日																	
	道路幅員	： 25.0m	計画交通量(H42年)	： 9,700 台/日 (B P)																	
	車線数	： 4車線 (暫定2車線)		： 7,100 台/日 (現道)																	
		設計速度	： 60 km/h																		
		構造物等	： -																		
(3) 事業予定期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 23 年度～平成 25 年度</td> <td>用地調査、用地取得</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度～平成 29 年度</td> <td>工事実施</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成 23 年度～平成 25 年度	用地調査、用地取得	平成 26 年度～平成 29 年度	工事実施														
期 間	事 業 内 容																				
平成 23 年度～平成 25 年度	用地調査、用地取得																				
平成 26 年度～平成 29 年度	工事実施																				
(4) 事業費及び内訳	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>約 14 億円 (暫定2車線整備)</td> </tr> <tr> <td>事業費内訳</td> <td> 工事費： 約 6.6 億円 用地補償費： 約 7.0 億円 測量設計費： 約 0.4 億円 </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国費： 55%、県費： 45%</td> </tr> </table>	事業費	約 14 億円 (暫定2車線整備)	事業費内訳	工事費： 約 6.6 億円 用地補償費： 約 7.0 億円 測量設計費： 約 0.4 億円	財源内訳	国費： 55%、県費： 45%														
事業費	約 14 億円 (暫定2車線整備)																				
事業費内訳	工事費： 約 6.6 億円 用地補償費： 約 7.0 億円 測量設計費： 約 0.4 億円																				
財源内訳	国費： 55%、県費： 45%																				
(5) 事業発案の経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> 本路線における交通量の増加。 歩道が未整備のうえ、田原小学校・田原中学校があり、通学児童の安全確保が急務。 宇都宮市及び主要地方道藤原宇都宮線整備促進期成同盟会からの早期整備要望。 																				
4. 県計画への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道藤原宇都宮線上田原工区は、県の総合計画である「とちぎ元気プラン」において、「体系的な道路網の整備」の施策の中の「県内外との交流・連携を高める道づくり」に位置づけられ、この道路整備を推進することにより日光市（旧藤原町）と宇都宮市の連携強化が図られる。 上河内スマートインターチェンジへのアクセスが向上することにより、新たな県土60分構想のエリア拡大が図られる。 																				
5. 他計画・他事業との関連	<ul style="list-style-type: none"> 同路線、本工区南側（田原工区 L 1.5km）が、平成 20 年 3 月供用済 〃、本工区北側（中里工区 L 2.4km）が、平成 27 年度供用予定 平成 19 年 4 月に上河内スマート I C が運用開始（東京方面） 平成 22 年 3 月に上河内スマートインター線が供用 平成 22 年 12 月 18 日に上河内スマート I C がフルインター化 																				
所轄部課名	県土整備部 道路整備課																				

別添図面・・・事業位置図

事業評価調書	
事業名	主要地方道藤原宇都宮線 宇都宮市上田原工区整備事業
1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線の現道は、田原小学校の通学路になっているが、バイパスを整備することにより通過交通の転換を図り、通学児童の安全性向上を図る必要がある。 ・本路線は、上河内スマートインター線に接続する唯一の県道であることから、交通結節点へのアクセス強化を図る必要がある。 ・当該区間の安全で円滑な交通を確保し、広域的な道路網の整備促進、県北地域の観光産業への支援を図る必要がある。
2. 事業の適時性	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに本路線の幅員狭小・屈曲区間について、順次拡幅・バイパス整備を行っており、平成20年3月に本工区南側L 1.5kmを供用している。 ・また、本工区北側L 2.4kmについては、国道293号との交差点付近を今年度供用し、平成27年度までに整備が完了する予定である。 ・上田原工区については、通学児童の安全確保が課題となっていることから、早急な整備を行うため、平成23年度の事業着手化を図る。
3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・現道が人家連担地区に位置し、拡幅が困難なことからバイパス方式を選定した。 ・ルート設定に当たっては、既存の道路ネットワークを最大限に活用できるルートとし、地形、土地利用の状況、施工性、経済性等を総合的に調査検討した。
4. 事業手法の適切性(県が事業主体となる理由等)	主要地方道藤原宇都宮線の道路管理者である県が事業を実施する。
5. 事業により予想される効果及び影響	<p>経済効果 (暫定2車線)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比(B/C) 1.3 ・総便益(B) 16.2億円 <p>総便益は、供用後50年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少効果等の合計である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用(C) 12.8億円 <p>費用は、建設費に供用後50年間の維持管理費を加算している。</p> <p>生活改善 バイパスを整備することにより現道の交通量が減少し、田原小学校・田原中学校の通学児童等の歩行者の安全が確保される。</p> <p>生活圏の活性化 宇都宮市と日光市(旧藤原町)の連携が強化され、地域間交流の活性化を図ることができる。</p> <p>経済支援 道路幅員が狭隘で屈曲した区間を解消することにより、上河内スマートインターチェンジを利用した物流機能の強化が図られる。</p> <p>環境改善 円滑な交通を確保することにより、温室効果ガスや大気汚染物質の排出が軽減され、沿道の環境を改善することができる。</p>
6. 事業コスト縮減等の可能性	・公共工事コスト縮減行動計画2010(平成22年7月栃木県)に基づき、設計・施工各段階においてコスト縮減を検討する。

主要地方道藤原宇都宮線 位置図 S=1:50,000



【凡例】

中里工区	(整備中箇所)	■
	(未事業化区間)	■
上田原工区	(評価箇所)	■
田原工区	(供用済箇所)	■
現道		■

【標準横断図】

全幅員 (25.00)

